



丹波篠山市立  
たまみず幼稚園  
城北畑小学校  
11月の3

### 親子感想文より

道徳の本を家族で読み合い、思ったことや感じたことを話し合うという取組を本校で実施しています。毎回たくさんの感想をご家族の方からいただいていますこと、本当に感謝しております。今回は1年から3年生の児童と保護

者さんから寄せられた感想を掲載します。

●作品名「ありがとうの気持ちをこめて」(3年生：道徳より)

○自分の身のまわりでがんばってくれている、けいさつの人や消ぼうしさんなどの人たちは、みんなのためにすごくがんばってくれているなあ、とあらためて思いました。たとえば、消ぼうしさんだったら、火事の見回りをしてくれているから、火事がちょっとでもへらせるようにしてくれているのかなあ、と思いました。けいさつの人たちは、悪い人たちをつかまえて事けんが早く終わるようにがんばってくれているのかなあ、と思いました。そんな人たちをおうえんするのはすごくいいことだなあ、と思いました。私たちの身のまわりでは、いろいろな人ががんばってくれているのだなあ、と思いました。(3年女子)

☆日々何かある度に警察や自衛隊、消防などの方たちに皆すごく助けられています。天候が悪くても必死で活動してくださる事に感銘を受けて、我が子が将来そういう人になりたいと思っている事が親として大変嬉しく思いました。(保護者)

☆何年か前にこのお話に出てきた小学生をテレビで見たことを思い出しました。東日本大震災の時は、まだお腹の中にいた我が子が、この小学生と同じ年頃になったのだと感慨深いものがありました。地震の恐ろしさや、またそれをきっかけに広がるボランティアの輪のことなど、親子で話し合うよい機会となりました。(保護者)

●作品名「わすれられないきおく」(2年生：兵庫県道徳副読本「こころはばたく」より)

○自分で、てちょうやふで入れをかえしに行ったらいいと思いました。りゆうは、自分がいやなことを妹にやらせたらダメだと思います。妹に手つだってもらうのはいいと思うけど、妹だけに行かせたらダメだと思います。(児童)

☆毎日の生活の中で、子どもに物事の善し悪しを教える場面が多々あります。このお父さんのように、さりげなく、でも子どもの記憶に強く残るような、親としての接し方が日々できれば良いなと思い、考えさせられた、とても印象深い文でした。(保護者)

☆問題が起きた時、ゆっくりと話を聞くことはとても難しいことです。私も心がけていかないと思いました。(2年保護者)

●作品名「くりのみ」(1年生：道徳「くりのみ」より)

○きつねは、だれにもどんぐりをわたしたくなくなかったから、うそをついてわるいとおもった。でも、うさぎは、かわいそうにおもって、くりのみをあげてやさしいとおもった。きつねは、うそをついたのに、やさしくされて、じぶんがうさぎだったら、うそをつかれたらいやだから、うさぎにわるいとおもった。わたしもおともだちがこまったら、たすけてあげたい。(1年児童)

☆息子は食いしん坊なので、きつねさんのお腹いっぱいになりたいのしょうね。うさぎさんの優しさが、きつねさんの涙につながるの分かるのに何回も読みました。(保護者)

☆いつも嘘だけはつくなど教育しているつもりではいますが、今回の本読みを通して少しでも自らの行動、言動を見直し、思いやり豊かに育て欲しいと思うばかりです。(1年保護者)

☆困っている人がいたら、声かけをして少しの物でも分け合える……。人として当たり前の方が出来る人に育ててほしい。(保護者)

☆嘘をつくことでどうなるか、どう思うか、子どもと話が出来たことが良かったと思います。(保護者)

☆きつね自身の考え及び行動は、生きていく上での生物学上やむを得ないと考える。しかし、うさぎが取った行動は、分け与える、所有から共有という事であり、共に生きるという姿勢が見受けられる。人間社会において、全てを共有することは難しいことと思われるが、うさぎのような相手の事を思いやれる考えを持つ事も大切と考える。(保護者)

※家族での話し合いを通して自分らしく生きる素地を培っていただいています。感謝しています。

○●お願い○●学習発表会ですが、コロナ第3波到来とも報道されていること、また、場所が講堂ということもあり、**参観者数を各家庭から2名以内**とさせていただきます。ご理解ください。

☆朝晩の冷え込みが続いていますが、皆様元気でお過ごしのことと察します。コロナ第3波到来とも報道され、これからはインフルエザ流行時期とも合わせ、学校では「手洗い・うがい・マスク着用」等、基本に立ち返り全校朝会でも啓発するなど、感染防止に努めていきます。

さて、毎年、詩集「山なみ」を丹波篠山市国語担当者部会が編集しています。各学年ごとに代表作品として出品します。本校においても1年から6年まで1点ずつ出しました。左の詩は1年生男の子が書いた作品です。最後の「やりました」が、短い言葉ですが大変印象に残ります。何かで仕返し(?)をと、あれこれ一晩考えたのでしょうか。次の日も勉強中に考えていたのかもしれませんが。熟慮の結果「隠れ作戦」実行！やりましたね。おみごと成功です。成功した瞬間の顔がみえたかったです。

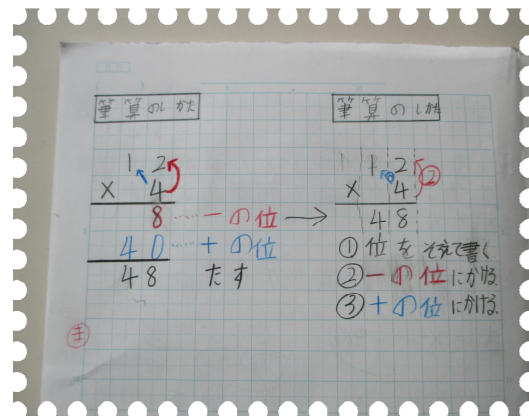
れんごう  
一年

おかあさんが きょうをよみました  
たべようとする おとうさんが  
もう きょうをたべていました  
ほくも たべたいと くやしい 気持ちになりました  
くやしくて つぎの日 おとうさんに  
ごっきりをしようとおもいました  
よる、くつばいのドアをあけて そこにかくれました  
おとうさんが かえってきたとき  
ほくは ドアをあけて おとうさんを  
おそろかせることができました  
やりました うまく行って ほっとしました

### 見事なノートづくり

本時の  
課題

1箱12本入りのえん筆が4箱あります。全部で何本ですか。



一の位が0でないかけ算の仕方を考えました。既習のサクランポ計算を使って12を10と2に分けて考える児童、言葉で答えを出す児童、式に書いてそれを言葉で説明しようとする児童がいました。それらを発表する中で様々な考え方があったことをみんなで確認しました。その後、 $10 \times 4 = 40$ 、 $2 \times 4 = 8$ 、 $40 + 8 = 48$ と式を3回書いて答えを出しましたが、もっと要領のいい方法はないかと、筆算で計算する方法を学びました。左は、その仕方を記したノートの一部です。間隔を開けて書き取る、大切だなと思うところは色鉛筆等を使って書く、計算順序も書くなど、誰が見ても見やすいノートづくりを心がけています。

丁寧なノートづくりをすることで学習内容が頭にも整理整頓され、理解も進みます。友だちの意見や教師の板書を聞いたり見たりしながらのノートづくりは簡単なことではありませんが、それだけ集中を持続しながら学習に取り組んでいる証拠でもあります。みんな一所懸命に学習しています。

(3年生のノートより)